

議事概要

区 分	内 容												
会議名	令和 6 年度 第 4 回 みどり市地域公共交通活性化協議会												
日 時	令和 7 年 3 月 1 9 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分まで												
場 所	みどり市役所大間々庁舎 3 階 大会議室												
出席者	26 名（7 名欠席）※1 名兼務												
議 事	1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 < 報告事項 > (1)「電話でバス」バス停の新設等について 資料 1 に基づき、事務局より説明 <table border="1"> <tr> <td>意見 (前橋工科大学教授)</td><td>他の市での会議に出席し、同じような話があったが、住民から区長への要望で新設をして、需要があることは良いことだが、計画的にモニタリングが必要になると考える。例えば、バス停の密度や利用実態の有無の確認をするなど計画的にモニタリングして頂きたい。</td></tr> </table> (2)「電話でバス」運行システムの入替えについて 資料 2 に基づき、事務局より説明 <table border="1"> <tr> <td>質疑 (前橋工科大学教授)</td><td>予約が取りづらい状況とのことだが、システムを入れ替えることで解消されるのか。システムそのものの性能ではなく、車両数や乗務員数が起因しているものではないのか。</td></tr> <tr> <td>回答 (事務局)</td><td>現状のシステムでも自動で経路計算を行い最適な経路を算出しているが、現システムを導入してから 10 年程が経過する。近年の技術の進歩により、今回行った AI でのシミュレーション結果では、同じ台数でもより最適な経路を算出し、現在よりも多くの人数を運ぶことが出来ることと想定されている。システムの入替えにより、より多くのニーズに対応することが出来ることと想定している。</td></tr> <tr> <td>質疑 (前橋工科大学教授)</td><td>現在のシステムは、どのくらいの金額で導入をしたのか。 また、群馬県が構築した「GunMaaS」の導入は検討しているのか。</td></tr> <tr> <td>回答 (事務局)</td><td>資料が手元になく、正確な数字ではないが、補助金を活用せず 500 万円程度で導入した。 「GunMaaS」とも連携できるシステムを導入する予定だが、コストがかかるため、今後の検討となる。</td></tr> <tr> <td>意見 (赤城観光自動車(株)代表取締役)</td><td>プロポーザルの審査の段階で、運行している当社のオペレータの意見を参考として審査して頂きたい。</td></tr> </table>	意見 (前橋工科大学教授)	他の市での会議に出席し、同じような話があったが、住民から区長への要望で新設をして、需要があることは良いことだが、計画的にモニタリングが必要になると考える。例えば、バス停の密度や利用実態の有無の確認をするなど計画的にモニタリングして頂きたい。	質疑 (前橋工科大学教授)	予約が取りづらい状況とのことだが、システムを入れ替えることで解消されるのか。システムそのものの性能ではなく、車両数や乗務員数が起因しているものではないのか。	回答 (事務局)	現状のシステムでも自動で経路計算を行い最適な経路を算出しているが、現システムを導入してから 10 年程が経過する。近年の技術の進歩により、今回行った AI でのシミュレーション結果では、同じ台数でもより最適な経路を算出し、現在よりも多くの人数を運ぶことが出来ることと想定されている。システムの入替えにより、より多くのニーズに対応することが出来ることと想定している。	質疑 (前橋工科大学教授)	現在のシステムは、どのくらいの金額で導入をしたのか。 また、群馬県が構築した「GunMaaS」の導入は検討しているのか。	回答 (事務局)	資料が手元になく、正確な数字ではないが、補助金を活用せず 500 万円程度で導入した。 「GunMaaS」とも連携できるシステムを導入する予定だが、コストがかかるため、今後の検討となる。	意見 (赤城観光自動車(株)代表取締役)	プロポーザルの審査の段階で、運行している当社のオペレータの意見を参考として審査して頂きたい。
意見 (前橋工科大学教授)	他の市での会議に出席し、同じような話があったが、住民から区長への要望で新設をして、需要があることは良いことだが、計画的にモニタリングが必要になると考える。例えば、バス停の密度や利用実態の有無の確認をするなど計画的にモニタリングして頂きたい。												
質疑 (前橋工科大学教授)	予約が取りづらい状況とのことだが、システムを入れ替えることで解消されるのか。システムそのものの性能ではなく、車両数や乗務員数が起因しているものではないのか。												
回答 (事務局)	現状のシステムでも自動で経路計算を行い最適な経路を算出しているが、現システムを導入してから 10 年程が経過する。近年の技術の進歩により、今回行った AI でのシミュレーション結果では、同じ台数でもより最適な経路を算出し、現在よりも多くの人数を運ぶことが出来ることと想定されている。システムの入替えにより、より多くのニーズに対応することが出来ることと想定している。												
質疑 (前橋工科大学教授)	現在のシステムは、どのくらいの金額で導入をしたのか。 また、群馬県が構築した「GunMaaS」の導入は検討しているのか。												
回答 (事務局)	資料が手元になく、正確な数字ではないが、補助金を活用せず 500 万円程度で導入した。 「GunMaaS」とも連携できるシステムを導入する予定だが、コストがかかるため、今後の検討となる。												
意見 (赤城観光自動車(株)代表取締役)	プロポーザルの審査の段階で、運行している当社のオペレータの意見を参考として審査して頂きたい。												

< 協議事項 >

(1)みどり市地域公共交通計画について

資料 3 に基づき、事務局より説明

質疑 (関東運輸局地域公共交通マイスター)	電話でバスの予約が取れない状況としては、どのようなことが原因なのか。システムの入替えよりも、バスの台数の問題が大きいと感じているため、どのように考えているのか。
回答 (事務局)	病院やスーパーでの利用で 10 時台に集中して予約が取りづらい状況が発生している。台数が不足しているのかについては、コスト面の関係で台数を増やすことは実際問題難しいと考えている。 システムの入替えにより、経路や乗合の経路の最適化、待ち時間の調整をすることで、同じ台数でもより多くのニーズに対応できると考えている。台数はもちろん関係はしているが、システムについても問題認識している。
意見 (赤城観光自動車(株)代表取締役)	同じ時間帯に集中することが予約の取りづらさに繋がっている。また、空いている時間まで待てない方、相乗りに抵抗感を持っている方もおり、台数が増えれば対応可能ではあるが、当社としてもシステムの入替えが有効であると感じている。
質疑 (前橋工科大学教授)	逆に車両が空いている時間があるということか。
回答 (赤城観光自動車(株)代表取締役)	公共交通であり、人の流れによっては空いている時間があるが、仕方がないと感じている。
意見 (前橋工科大学教授)	利用者にオンピーク・オフピークを自ら考えて利用して頂く、相乗りについても理解してもらうことが今回の計画の中身の一つである。

意見 (前橋工科大学教授)	資料の分析の他に、アンケートの自由意見からも可能な限り分析をして頂きたい。 高校生について、よく話題に挙がるが保護者の方に送迎して通学することは、持続可能ではない。家族の活躍の場の妨げになるともいわれている。 p19 にあるように、現在は自転車での通学が多い状況である。 小・中学校については、文部科学省の方針で学校の統廃合が進められている。これらについても暮らし続けられる環境にして頂きたい。
------------------	--

質疑 (関東運輸局地域公共交通マイスター)	p27 の大間々・笠懸路線バスの利用状況で、「アクロスプラザ」「東邦病院」の利用がほとんどないとのことだが、電話でバスの利用状況はどうなっているのか。
回答 (赤城観光自動車(株)運行管理者運転手)	「東邦病院」については、電話でバスの利用率が高い。利用している方は、路線バスが運行していない地域の方が多い。 「アクロスプラザ」については、地元の方が 1 から 2 人程度の利用がある。

意見 (前橋工科大学教授)	病院へ行く方は、元気でない方が多い。公共交通は重ね合わせて上手く活用することが重要である。公共交通が不便な地域からの利用が多いとのことであるため、分析については大間々・笠懸路線バスと電話バスの利用状況を重ね合わせるとより良い考察になると考える。 大間々・笠懸路線バスは、南北の公共軸を担うサービスであるため、育てていく必要がある。
意見 (前橋工科大学教授)	みどり市の公共交通の利用率は2%程度である。今利用している方により利用してもらうことも必要だが、利用していない方に利用される施策に繋がる分析を行っていただきたい。
質疑 (わたらせ渓谷鐵道代表取締役社長)	公共交通が重複していて鉄道でもバスでも行ける場所で、公共交通同士で利用者を取り合うような状況は発生しているか。 例えば、大間々高校生は岩宿駅から大間々・笠懸路線バスを利用して通学をしているのか、或いは、わ鐵を利用しているのか。
回答 (事務局)	鉄道とバスが重複している区間は実際にあり、東町路線バスとわ鐵の平行運行や大間々・笠懸路線バスと電話でバスの重複が問題認識として感じている。今回の計画では、そういった位置づけも踏まえた施策の展開が必要となる。 鉄道を利用し、岩宿駅から大間々・笠懸路線バス利用している通学者はほとんどいないが、桐生駅からわ鐵に乗り、大間々駅で降車をしている者はいる。岩宿駅からの大間々・笠懸路線バス利用者は、市内在住者に限定されている。
意見 (わたらせ渓谷鐵道代表取締役社長)	住民からの要望に応えようとする、どうしても鉄道とバスが重複してしまう。そうではなく、本来は鉄道で行くことができるが、その他の公共交通が重複している箇所については、今後の検討が必要になると感じている。
意見 (前橋工科大学教授)	利用者からすると、交通手段が選べるのが魅力の一つとも言われている。今後どう整理をして、計画に位置付けていくかが事務局の腕の見せ所である。全体として、公共交通が盛り上がるのが重要である。
意見 (わたらせ渓谷鐵道代表取締役社長)	地域振興的な話にはなるが、p21にあるように来訪者がみどり市を訪れる目的は、「自然景観を楽しむ」「鉄道を楽しむ」ことが多いが、何か目的を持って訪れる方は少ない。利用者を増やすためには、まちの賑わいを創出する必要があると感じている。観光施設まで公共交通で繋ぐことも重要だが、駅から降りたところで楽しめる空間が必要である。
回答 (事務局)	今回の計画の目的は、市民の移動手段を確保することではあるが、まちの賑わいについての観点も踏まえながら、今後の方針や施策を検討していく。
意見 (みどり市観光協会代表理事)	観光協会としては、観光を通じたまちづくりを念頭に様々な事業を行っている。まちに活気があれば公共交通を利用してもらえると考えている。 以前に比べると、店舗が閉店していることが事実としてある。今後は、東京から東武鉄道を利用して頂き、回遊することを目玉とした取組を進めていく。その中でもやはり、街並みの整備は必要だと感じている。

質疑 (前橋工科大学教授)	まちづくりの観点から何か動きはあるのか。
回答 (事務局)	大間々地域では、空き店舗を活用したリノベーションまちづくりの取組を進めている。公共交通では、回遊性の向上を図ることで、まちの活性化に繋がると考えている。将来的には、リノベーションまちづくりと併せた検討をしていく。
意見 (前橋工科大学教授)	公共交通とまちづくりは一体である。早めに実現し、魅力を高めていただきたい。 鉄道沿線・鉄道駅周辺・鉄道自体についてもう一度見直していただき、より魅力を発信して頂きたい。 前橋工科大学の学生の研究では、わ鐵から見える景観がみどり市の魅力であるとの研究を行っている。景観を含めた魅力づくりが必要である。

意見 (関東運輸局地域公共交通マスター)	住民の要望に応じて便利にすることは、重要だが持続可能性の観点で見ると心配に感じる。どこを何で担っていくかについては計画性をもって検討していくことが必要となる。
回答 (事務局)	総合計画では、公共交通の利用者数の指標があるがそこだけを追い求めてしまうと、持続可能でなくなってしまう。今回の計画では、公的資金投入額と利用者数とのバランスを見ながら検討していく。今まで PDCA の P である計画がなかったため、本協議会で PDCA サイクルを回してより良い公共交通を運営していく。

意見 (前橋工科大学教授)	公共交通のファンを増やすことが、重要である。来年度の目標設定に当たっては、公共交通の魅力が十分に伝わるような表現にして頂きたい。イラストとして、見て伝わるように示していただきたい。
------------------	--

意見 (わたらせ渓谷鐵道代表取締役社長)	p37 の課題で意識醸成とあるが、車が圧倒的に多い中で意識醸成だけでは不足しているのではないかと考えている。もう一歩踏み込んで、意識醸成ではない別の視点での施策が必要だと考える。
-------------------------	---

→ 全会一致で承認

(2) 令和 7 年度事業（案）について

資料 4 に基づき、事務局より説明

→ 全会一致で承認

(3) 令和 7 年度収入支出予算（案）について

資料 5 に基づき、事務局より説明

→ 全会一致で承認

(4) 令和 7 年度みどり市地域公共交通計画策定支援業務の委託について

資料 6 に基づき、事務局より説明

意見 (前橋工科大学教授)	来年度については、自由意見についても分析が必要だと思っている。また、観光客のデータを補足するため、人流データの活用も必要と考える。
------------------	---

→ 全会一致で承認

4. その他

意見 (みどり市区 長会会長)	電話でバスの標識について、面白みに欠ける。来訪者にも分かりやすく、 可愛いデザインに変更して頂きたい。
回答 (事務局)	森田会長からも、事前にご意見を頂いている。バスを待っている人が楽し いと思えるようなバス停に変更していきたい。
報告 (事務局)	令和 7 年 4 月 1 日より大間々・笠懸路線バスのダイヤ改正を行う。「う な福/よってけや」「桐生大学」のバス停新設に伴うダイヤ改正である。

5. 閉 会

以 上